

世界のまちづくり紀行

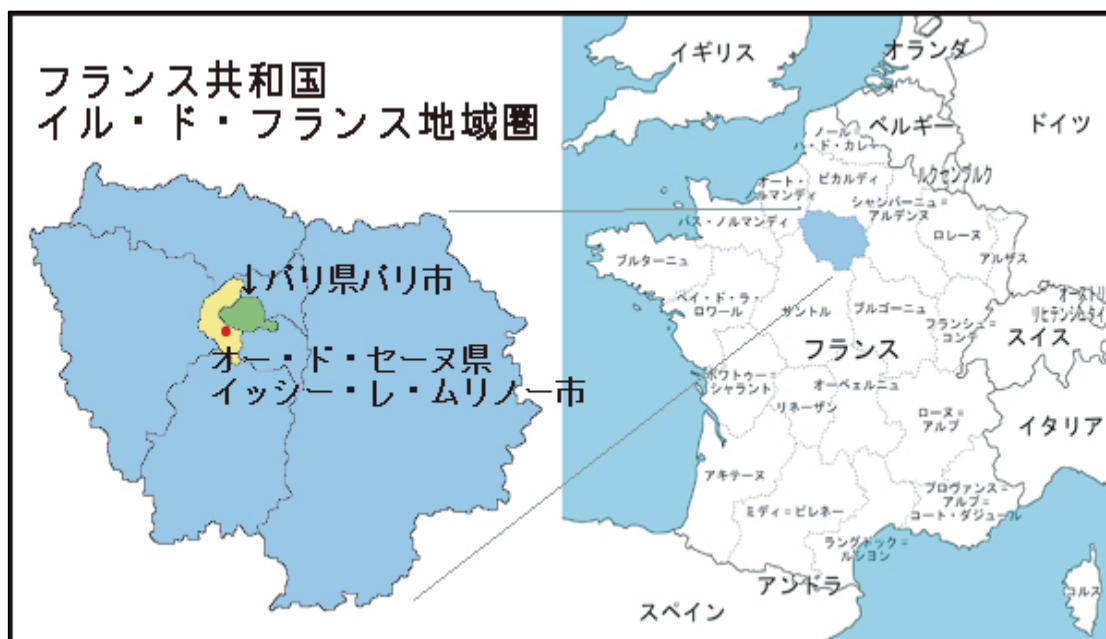
in Paris

今回はフランスの首都 Paris のまちづくりについて紹介したいと思います。

はじめに、フランスの本土面積は 55 万km²、人口は約 6,500 万人であり、日本の約 1.5 倍の面積で、人口は 1/2 の規模となっています。

地方行政体制として、全国は 22 の地域圏・州(レジオン région)に区分され、その下に 100 の県(デパルトマン département)があり、その下に基礎自治体である市町村(コミューン commune)が約 36,500 存在します。また空間計画の策定については、国や州が広域計画を、コミューンやコミューンの連合組織が都市計画を担当しています。

Paris 市はフランスの首都であり、市の行政区域はかつての城壁に囲まれた範囲で面積 105 km²と東京特別区の都心・副都心区を合わせた程度で、人口は約 215 万人ですが、イル＝ド＝フランス地域圏の中心都市であり、圏域の人口は 1,230 万人と国土全体の 19%を占める大都市圏を形成しています。



■ イル＝ド＝フランス地域圏

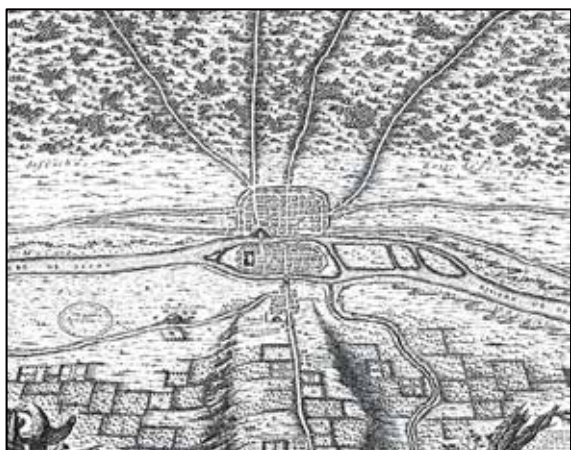
Paris は世界有数の観光都市であり、街にはセーヌ川が流れ、ルーブル美術館やエッフェル塔、凱旋門、そしてシャンゼリゼ通りなど有名な観光スポットが多くあり、芸術・文化・ファッションの中心地です。Paris は「花の都」と呼ばれ、街並みの美しさは世界屈指です。パリの街並みがどのように作られ、そして将来、どのような街づくりが目指されているのかご紹介したいと思います。



■ Paris の地図

Paris の成り立ちと発展

Paris は紀元前 250 年頃にケルト人がセーヌ川のシテ島に集落を作ったことから始まります。ローマ時代にはローマ人の移住により街はセーヌ川両岸に拡大しました。その後、506 年フランク王国メロヴィング朝の首都となり、12 世紀のカペー朝期にはノートルダム大聖堂・ルーブル宮殿が建設されています。



■ 5 世紀ごろの Paris の市街地



■ 15 世紀ごろの Paris の市街地



■ ノートルダム大聖堂



■ ルーブル宮殿

16 世紀末からのブルボン朝・ルイ王朝期にフランスは最盛期を迎え、パリ市街地にリュクサンブール宮殿やパレ・ロワイヤルが建設され、郊外にはベルサイユ宮殿も造営されています。

現在の Paris の歴史的建造物の多くが、この時代に建設・改築されたもので、街の歴史的景観を担っています。



■ リュクサンブール宮殿



■ パレ・ロワイヤル



■ ベルサイユ宮殿



■ 鏡の間

Paris の大改造

ブルボン王朝後フランスは市民革命を経て、共和制と帝政を繰り返しながら大国となりました。1852 年皇帝に即位した**ナポレオン三世**は、新たにセーヌ県知事に就任した**ジョルジュ・ウジェーヌ・オスマン**に、Paris をフランスの首都にふさわしい都市とすべく大規模な都市改造を命じました。これが「**Paris の大改造**」です。

当時パリの人口は 100 万人を超えており、市街地は過密状態でコレラも流行するなど大変不衛な環境となっていました。オスマンの都市改造の目標は、パリの衛生状態を良くすること。そのため水道と下水道を整備し、街の中に光と風を入れること。狭い街路を広げ街路樹を整備すること。建物の高さ・フォサード・意匠を統一し、街の景観を整備することでした。



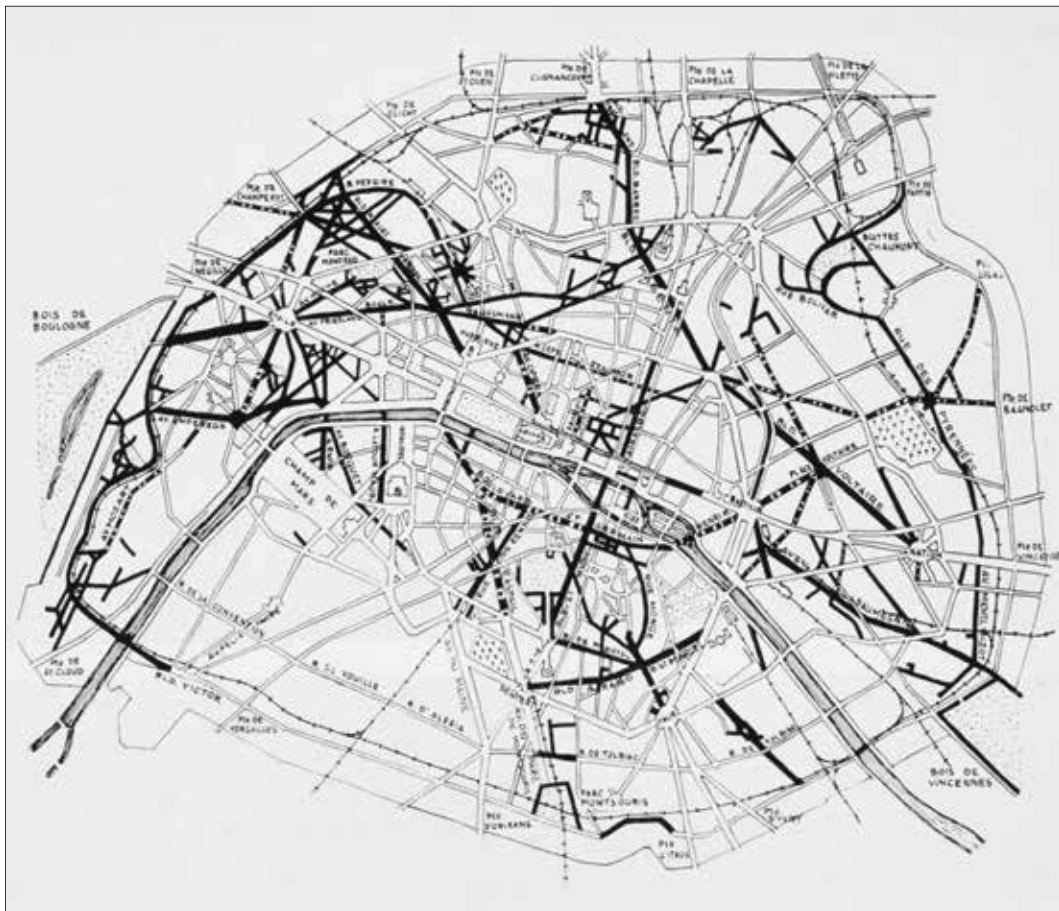
■ ナポレオン三世



■ ジョルジュ・オスマン

◆ パリ改造計画の内容 ◆

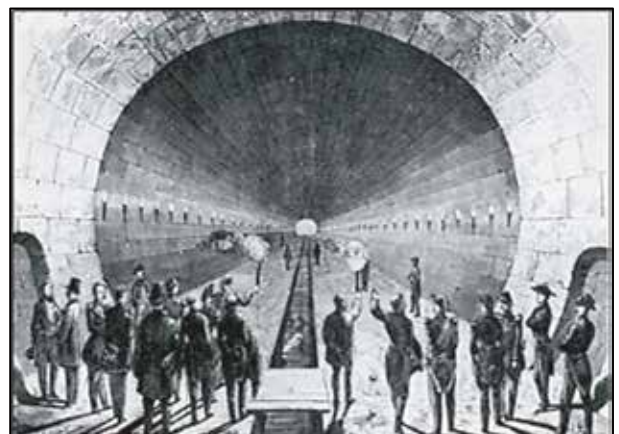
- ① 凱旋門等の放射道路の整備 (シャンゼリゼ通り等の通りの整備)
- ② 街区道路の拡幅
- ③ 街路樹・街路灯の整備
- ④ 上・下水道の整備
- ⑤ 大規模都市公園の整備 (ブローニュの森・ヴァンセンヌの森の整備)
- ⑥ 建物の形状・高さ・意匠の制限 (建物の高さ 25m 制限)



■ パリ改造計画図



■ 放射道路・街路樹の整備



■ 下水道の整備



■ 道路拡幅のため解体される建物



■ 拡幅された道路



■ 都市公園 プーローニュの森



■ 統一感のある街並み景観

Paris 歴史的・美しい街並み

パリの歴史軸

Paris の歴史軸は市の中心部に位置し、東はルーブル美術館中庭のカルーゼル凱旋門からエトワール凱旋門を経て、西はラ・デファンス地区のグランドアルシュまでの約 8km の通り（シャンゼリゼ通り + グランド・アルメ通り）で、歴史的建築物、記念碑、公園・広場などが点在しています。



■ ルーブル美術館



■ カルーゼル凱旋門



■ テュイルリー公園



■ コンコルド広場



■ シャンゼリゼ通り



■ エトワール凱旋門



■ グランド・アルメ通り



■ デファンス地区のグランダルシュ

エ菲尔塔

Paris の象徴であるエ菲尔塔 (高さ 330m) は、1889 年の第 4 回パリ万博の目玉の建築物として建設されました。オスマンの都市改造以降、市内の建物の高さに制限がある中、エ菲尔塔は市内で唯一の高さを誇り、Paris のランドマーク・シンボルとなっています。



■ エ菲尔塔



■ セーヌ川とエ菲尔塔



■ エ菲尔塔と街並みの夜景



■ セーヌ川とエ菲尔塔の夜景



■ エフェル塔からの眺め シャン・ド・マルス公園



■ エフェル塔からの眺め トロカデロ庭園・デファンス

パリの街並み



■ 美しいシャンゼリゼ通り



■ バロック様式の建物



■ テラス席のある街のレストラン



■ 公園内のオリンピック聖火台



■ 放射街路と街路樹



■ セーヌ川と街並み

Paris の再開発計画（Grand Paris）

2024 年 Paris でオリンピックが開催されましたが、セーヌ川・公園を開会式会場とし、Paris の持つ都市美を使った演出に世界の人々が魅了されました。

そして現在、Paris では「グラン・パリ(Grand Paris)計画」によって、パリの拡張と持続的な再開発が進められています。そして再開発の理念は「イノベーション」と「エコロジー」です。



■ セーヌ川の入場風景



■ エッフェル塔下の式典

Paris 市域の拡大と都市機能の分散

計画の1つが、パリの範囲を周辺市町村に拡大し面積を8倍に、総人口も約720万人とするものです。ニューヨークや東京、ロンドン等の世界都市と肩を並べる都市を目指しています。

また、パリに集中する都市機能を郊外に分散し、調和のとれた大都市圏を形成するもので、北部のサン・ドニからパンタン市にかけては映画や舞台・その他美術関係などの芸術施設の集積を図ること。西のデファンス地区には、既にオフィスビルが建ち並び、ヨーロッパ最大規模のビジネスゾーンを形成していますが、ゾーン更なる拡大を図るとともに、他の機能の集積も検討されています。他のビジネス拠点づくりも行われており、セーヌ川両岸の倉庫跡地や市街地内の駅舎跡地などの再開発も活発化しています。

集合住宅や文化・教育施設の郊外立地も盛んで、パリ市域の建物規制がないため高層の建物も立ち始めています。



■ デファンス地区



■ 17区クリシー地区の再開発



■ 世界最大級の起業スタートアップ拠点 ステーションF



メトロ・郊外鉄道・LRT の延伸

市内のメトロの延伸や郊外鉄道との連結による延伸拡大が計画されており、市街と郊外の交通利便性の向上が図られています。また LRT についても新設・延伸が図られるなど公共交通網の充実が進められています。



■ パリのメトロ



■ パリのLRT

自転車専用レーンの拡大

パリでは、環境問題の対応として、自転車利用の促進が進められており、自転車専用レーンが整備されています。



■ 自転車専用道路



ラウンドアバウト（環状交差点）の撤廃と広場化

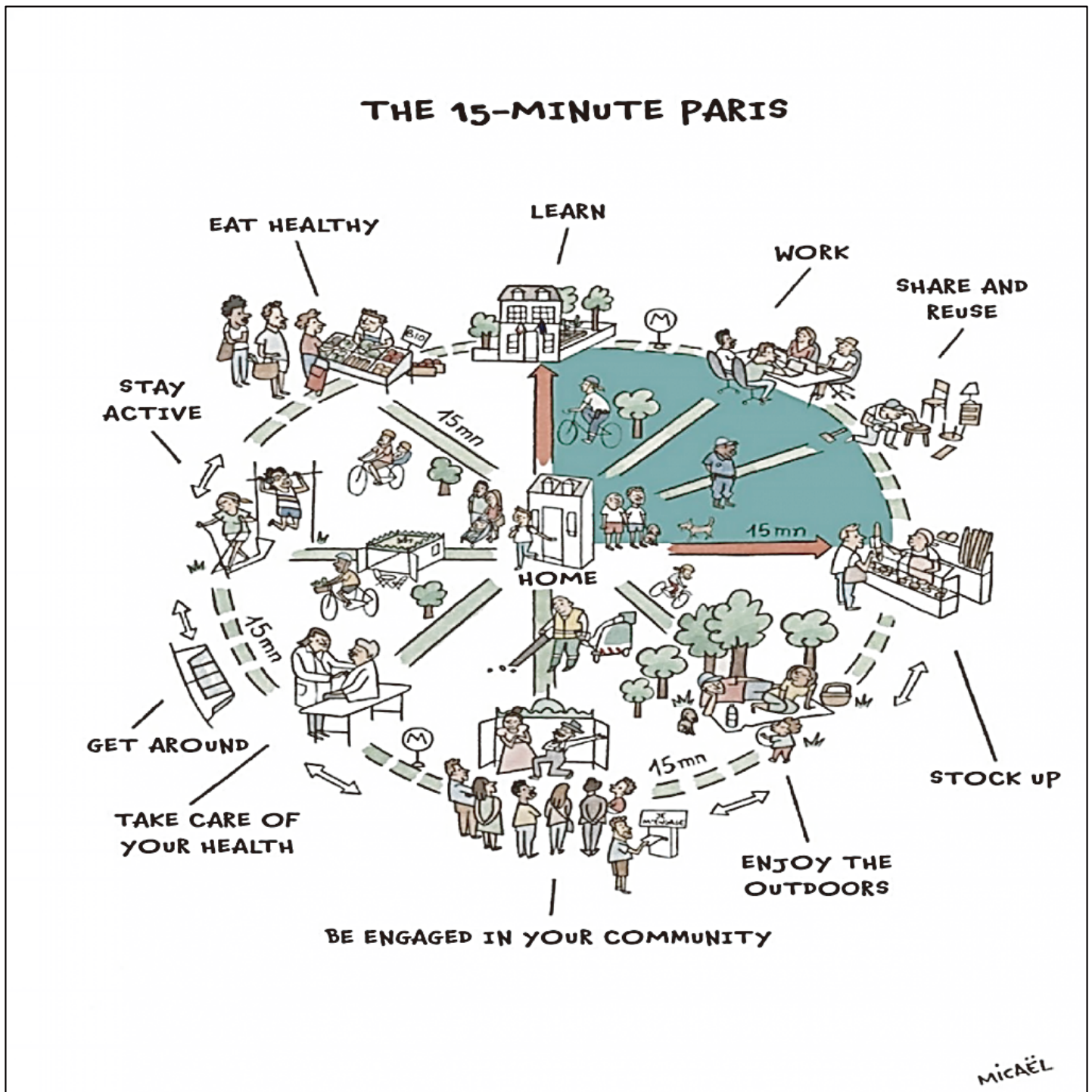
パリの交通の特徴であるラウンドアバウト（環状交差点）を廃止し広場や公園とする整備が進められています。



■ ポルトマイヨ地区のラウンドアバウト（環状交差点）の撤廃と広場化

「15-minute city」の推進

「15-minute city」はソルボンヌ大学のカルロス・モノレ教授が提唱した都市の概念で、市民が15分以内で買い物や仕事・学校に徒歩・自転車・公共交通機関で移動できる取り組みを進めており、自動車を利用しない生活を目指しています。コンパクトシティの概念として環境負荷の低減に取り組んでいます。



今回ご紹介した世界屈指の都市 Paris においても、過去の大改造を礎に、時代や市民のニーズ・経済・環境の変化に柔軟に対応し、今大きく変化しようとしています。都市は生き物であり、生きています。過去も大切にしながら、時代に合った我々が使いやすい都市へと変革させていくことが大切であると思います。